

JOCV千葉OB会報

2013年7月
No. 84

1. 会長挨拶

振り返ればあつという間の1年間で、どうにかこうにか JOCV 千葉 OB 会を存続させることができました。これが 4 月 13 日の総会を終わっての率直かつ正直な感想です。OB 会活動は全くのボランティアな活動ですから、近年 JICA が言うところの社会還元であることは否定しませんが、決して義務的なものではありません。

最近改めて思うことがあります。以前、JICA 在外事務所に勤務していた頃、隊員に向けた事務所便りに「隊員（ボランティア）活動は、明るく、元気に、そして楽しく！」と必ず書いていましたが、今は、「OB 会活動は、明るく、元気に、そして楽しく！」と思っています。

そして、「まずは自分から実践」と言うことで、有限実行、自分自身はいつも明るく元気に振舞ってきたつもりです。やはり現場の最前線の責任者が暗い性格で後ろ向きな仕事をしていたら、隊員達の士気は上がりません。ボランティア活動はどのような国であっても、どのような活動内容であっても、決して楽なものではありません。一生懸命頑張っている隊員達を最前線で鼓舞するのが現地責任者の務めです。



キリマンジャロとマサイの女の子

そんなことで、OB 会活動を行うに当たっても、この気持ちを改めて思い起こしているところです。

でも、OB 会活動は、できる人ができる範囲内でやればいいのです。国際協力・交流のイベントは結構華やかな印象を受けますが、やる方は大変です。今のところ当会は各種イベントに参加するには体力的な面が不足していますから無理して参加することはありませんが、かつての当会がそうであったように色々なイベントを企画したり、参加したりできたら良いなと思っています。

千葉県出身の隊員は本年3月末日現在で 1,622 名。その内、1,548 名が帰国しています。現在、当会が確認している名簿上の人数は 1,130 名。これだけ多くの帰国隊員がいるのですから、色々なことができると思いますが、現役世代が多いのでそうは簡単に行きません。OB 会活動は基本的に土日ボランティア、仕事で疲れて休みたい気持ちを抑えて活動に参加していただいている現役世代には感謝の気持ちで一杯です。私のような団塊のシニア世代がでしゃばるのは良くないと思いつつも、若い人たちへの繋ぎと心に決め、細々と、でも確実に次につなげて行きたいと思っています。

最後に一つだけのお願いです。

少しだけ、皆さん方の力をOB会活動に貸してください。OB会は誰のための会でもありません。皆さん方自身のためにあります。

青年海外協力隊千葉OB会
会長 浜田 真一

目次

1. 会長挨拶

2. 総会報告

3. 現地活動レポート

- 23-2 ブータン 看護師 土屋 あゆみ
- 23-2 エチオピア 水質検査 鎌形 香子
- 23-3 タンザニア コンピュータ技術 川山 相基
- 23-2 マラウイ 青少年活動 和泉澤 浩
- 23-2 ガーナ共和国 青少年活動 奥村 麻衣
- 23-1 ホンジュラス 小学校教諭 福田 南
- 23-3 チリ 村落開発普及員 吉田 美由紀
- 23-3 ソロモン諸島 環境教育 狐塚聡志

4. お知らせ

5. 編集後記

2. 総会報告

本年4月13日(土)14:00から浦安市国際センターにて平成25年度総会を開催しました。本来であれば、千葉県やJICAなど関係機関からの来賓を向かえて開催できた方が良かったのですが、まだまだ体制が整っていませんでしたから、内輪の会合になってしまいました。それでも34名の参加者があったのですからよしとしたいと思います。

プログラムは、いつもの通りでしたが、活発な意見が出され盛況のうちに閉会できたと思っています。
14:00、司会進行の鳥飼恵美子 OG (H15-1、マーシャル、理数科教師)により開会宣言。浜田会長挨拶の後、参加者全員の自己紹介があり、議長に藤田壽子 OG (S60-1、ケニア、理数科教師)を選出して議事が行われました。
議事は、以下の通りでした。

- (1) 平成24年度活動報告および平成24年度会計報告(監査報告を含む)
- (2) 平成25年度活動計画(案)および平成25年度活動予算(案)
- (3) 規約改定
- (4) 役員改選
- (5) その他

詳しい総会報告は当会のホームページに掲載していますので、「JOCV 千葉 OB 会」で検索していただき、そちらをご確認ください。ここでは、特にご理解ご協力いただきたいことを記載したいと思います。

まず、平成24年度活動ですが、これはミニマムな活動しかできませんでした。行事としては、新隊員の県庁表敬に同席、千葉県育てる会との共催で壮行会を開催、定例会の開催などです。事業としては、JICA エッセイコンテストへの協力です。千葉県内の中学校からの応募作品2,120点を一次審査しました。10名を超えるOB/OGが審査員として協力してくれました。

次に、平成25年度の活動計画ですが、新規として特筆すべきは「麗澤大学との連携講座」です。千葉県SVの会は既に連携講座を実施していたのですが、当会もこれに参画することになりました。国際交流・国際協力基礎演習と国際ボランティア論の2講座に5名の講師を送ることになりました。後期についてもご協力することになります。これは帰国隊員の活動発表の場ともなりますので、出前講座以上に力を入れて取り組みたいと考えています。自薦他薦と問いませんので、我こそはと思う方は講師に手を挙げてください。

また、中断していた「JOCV ナビ」を再開しました。毎月、原則第4土曜日の14:00~16:00に浦安市国際センターで開催します。一人でも多くのボランティア参加希望者の応募相談に当たりたいと思っています。2名の応募相談員を配置して実施しますので、こちらも応募相談員に手を挙げていただきたいと思います。麗澤大学連携講座講師も応募相談員もそれぞれの謝金と交通費を準備しています。

「メーリングリスト作成」や「住所録管理」もこれからの大切な事業となります。会員への情報伝達にメールは不可欠です。毎年の総会案内にはハガキを利用しており、今回も1,125枚のハガキを出しました。昨年はJOCA本部が代行しましたが、1,000枚以上の往復ハガキを出したのに、返信があったのは2割以下だったようです。もったいない話です。従って、経費節約の観点からもメールでの案内は必須と考えています。今回久しぶりに発行するこの会報ですが、住所の分かっている会員全員に郵便でお送りします。受け取られた方でメルアドのある方は是非とも当会にお知らせください。

「役員改選」については、規約に従って平成25年度と平成26年度の2ヶ年間の役員を選出しました。新役員名簿もホームページに掲載していますから、どうぞご確認ください。総会時点では副会長が成瀬猛 OB (S52-1、シリア、土木施行)でしたが、出席者から「是非とも女性の副会長も」とのご意見があり、この会報原稿を書いている時点では、木野本まゆみ OG (H13-3、カンボジア、音楽)が引き受けてくれました。平成20年代のOBも新役員に加わっていただき、活動が活性化することに期待しています。

議事の最後は「その他」です。「会費納入」のお願いをしました。総会終了後に早速納入していただいた会員も相当数いて、嬉しくなりました。この会報の最後にも同様のお願いをしていますが、毎年会費の納入者が少なく、当会の運営に支障をきたす恐れがあります。任意団体としては「会費」は生命線ですから、一人でも多くのOB/OGの会費の納入をお願いします。わずかとは言いませんが、年間1,000円です。コーヒーやタバコなどの嗜好品をちょっとだけ我慢していただき、ご協力ください。よろしく願います。



総会の様子



3. 現地活動レポート

23-2 ブータン 看護師 土屋 あゆみさん

私が派遣されているブータンは、南アジアのヒマラヤ山脈に位置し、首都ティンブーの標高は2400m、九州と同じくらいの面積のとても小さな国です。チベット仏教を深く信仰し、王様を愛し、自国の文化をとても大切にゴ・キラという民族衣装を着ている、とてもユニークで素敵な国です。

私はブータンの首都ティンブーにある、ブータン最大の国立病院のICUで働いています。病院全体のベッド数は350床。そのうちICUは4床、看護師スタッフ11名、3交代勤務で働いています。

試薬がなく特定の血液検査や血液ガス検査ができなかったり、薬の在庫が切れてしまったり、医師、看護師不足が深刻だったり、日本では助かったかもしれない命がブータンでは助からない。そう思う瞬間がたくさんあります。まだまだブータンの医療は遅れているのが現状です。そんな中で、看護師として働きつつ、外部の視点で課題を見つけ、同僚達と一緒にICUをよりよいものにしていくことが私の使命となっています。



ICUの同僚と

ブータンは幸福度が高い国と言われています。実際には、人間関係や仕事、生活の不満など、私たちと同じように悩みを抱え生きています。でも、多くの事を受け入れ許すことができる寛容さ、人との繋がりを大切にすると、みんなが集まれば歌い、踊り、食べ、どんな状況も楽しんでしまうところが、ブータンが幸せの国と言われる所以だと思います。そんなブータンで暮らし、働き、たくさんの刺激をもらっている自分もとても幸せ者だと思います。

空は青く、近い。深く、どこまでも広がる大自然。ブータンの国土の約70%は森林に覆われています。ブータンでできるアクティビティのひとつに、トレッキングがあり、去年の秋に、女神の住まう聖なる山として崇められている名峰、チョモラリ(7314m)を見渡す事のできるキャンプサイト、チョモラリベースキャンプへのトレッキングに参加しました。ベースキャンプは標高4100mのところにあります。

深い森の中を、大自然の懐に抱かれながら、歩き続ける事3日間、ようやくたどり着いたベースキャンプ。真っ白の雪に覆われ、現れたチョモラリの姿は、雄大で美しく、自然の強さと、美しさを全身で感じた瞬間でした。夜になると天の川に、たくさんの流れ星がみえました。私のブータンで最も感動した体験です。



ジョモラリベースキャンプへの道

23-2 エチオピア 水質検査 鎌形 香子さん

(1) 隊員活動に関すること（業務および日常生活全般）

配属先はエチオピア首都のアディスアババ市の上下水道局水質管理課で、ラボの分析能力向上が要請内容である。来る前は、外国から技術を導入したい、というような志あふれた職場のイメージであったが、実際はそういうスタッフはごくごく少数であった。従って、人間のやる気といった、技術とは関係ない次元で悩むことの多い隊員生活である。

(2) 任国に関すること（食べ物、習慣、旅など）

任国は一言でいうとアフリカではあるが、アフリカらしくない国、と言えようか。植民地化されていないこともあり、独自の文化の色濃く残る国である。人も他のアフリカとは違って、エネルギーに欠ける面があるように思う。欲が少ないというか。これは私が好きな点の一つではあるが。

(3) その他

ここに来て一番考えるようになったのは、月並みではあるが、幸せとは何かということである。赴任前は、開発途上国→不便・

貧乏→不幸 のような考えがぼんやりとあった。たとえば、水道がないよりあった方が幸せだろう、ということである。しかし物質的な豊かさというのは過去現在の比較、もしくは他者との比較でしか幸せを得られないことがここに来てよくわかった。我が家では時折断水するが、もうあまり不便とは感じない。それに比べ、日本で水道が完備した結果、市民は予告なしの断水があれば怒り、水道局に苦情が殺到するようになった。お釈迦様が言うとおり、人間の欲望にはきりが無い。きりのないものを追いかけていて幸せが訪れるはずもない…。

などなど、考えれば考えるほど、こののんびりとした、怠惰で非効率な社会を、発展のために変えることに戸惑いを覚える。特に日本のような、効率優先、仕事優先、大量消費の社会に生きてきた自分が、頑張れば日本のようになれるよ、などとエチオピア人に勧めることはできなくなってしまった。ありあまる時間、他者への寛容、足るを知る心、など、むしろ幸福の秘訣として現代日本人が学ばねばならないことがここには沢山ある。

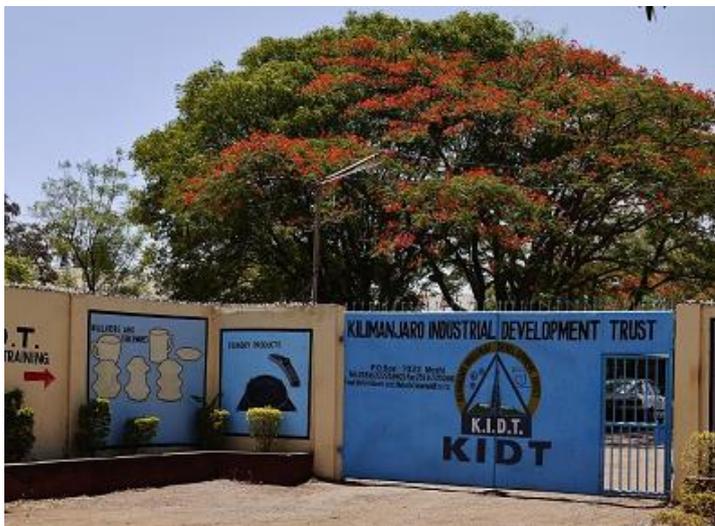


23-3 タンザニア コンピュータ技術 川山 相基さん

私は平成 24 年 1 月から東アフリカのタンザニアにコンピュータ技術隊員として派遣されています。活動地域はタンザニア北部、キリマンジャロ州の州都モシというところです。モシはアフリカ最高峰のキリマンジャロ山の麓にあり、またセレンゲティ国立公園やゴロンゴロ保全地区など有数の観光資源への拠点となっているため、欧米やアジアなどからの観光客が多くみられる都市です。タンザニアは世界のなかでいわゆる「最貧国」と言われている国ですが、実質的な首都であるダルエスサラームにはビルが立ち並び、地方都市であるモシにも大型スーパーが出店するなど、思ったより発展しているという印象を受けました。しかし道路の整備状況は極めて悪く、幹線道路や都市部を抜けると未舗装でデコボコな土の道路が普通になります。埃が多く 1 日の衣類や体の汚れが日本にいる頃とは比較にならないほどです。



同僚とダルエスサラームにて



配属先であるキリマンジャロ工業開発財団の正門

配属先は「キリマンジャロ工業開発財団」(略称: K I D T) として、工業製品の製造と職業訓練の両方を主な事業としている施設です。1980年代に日本の支援を受けて設立された施設で、JICAとのゆかりも深いところです。製品製造パートでは設立当初に設置されたと見られる日本製の大型な機械が当時の形のままだと稼働しており、私としては子供のときに見に行った親戚の鋳物工場が思い出され、なんとなくつかしい気分になります。

私はコンピュータ技術隊員として、生徒及び教員のICT技術向上のため派遣されました。職業訓練パートでは、私が配属される前からオフィスソフトの利用方法やコンピュータハードウェアのメンテナンスなどが指導されており、上から物を言う表現になってしまいますが「思ったよりうまくやっている」と感じました。現在私は、指導されていなかったインターネット関連の技術として「Webページ制作講座」を新たに開講し、生徒及び教員に指導を行っています。コンピュータの普及率は国全体としてまだまだ低いようですが、インターネットカフェやスマートフォンの普及につれてFacebookなどインターネットサービスの認知度は特に若者を中心に高くなっています。私の指導している技術はまだまだ初歩的なものですが、これからのタンザニアのインターネット産業振興に少しでも寄与できればと願って日々活動しています。

23-2 マラウイ 青少年活動 和泉澤 浩さん

先輩隊員の足跡

マラウイ各地を歩いているとたまにマラウイ人に「こんにちは。」とか「もしもし、お名前なんですか?」とか日本語で話し掛けられる。話をすると、10数年前に理科の先生が JICA ボランティアだったとか、数年前の JICA ボランティアと仲が良かったとかをよく聞く。普段私が活動を共にするユースが高校生だった時も、週1回 JICA ボランティアが学校に理科を教えに来てたとのこと。彼ら皆が当時教わった日本語や隊員の名前をしっかりと覚えてくれていること、すごく感謝していることを同じ日本人ボランティアとして尊敬し、誇らしくもなった。

先日、任地のある高校を訪れたときには非常に驚いた。それは10数年前に先輩隊員が中心となり、日本マラウイ協会のウォームハートプロジェクトの支援を使って建てた理科の実験室や購入した実験器具が今もしっかりと管理され、大切に使われていたからだ。そしてその他の足りない実験器具は自分たちで作るなどの工夫がされていた。先輩隊員は物や施設を与えるだけではなく、その後のことまでしっかりと指導されていたことがすごく表れていた。

他にもマラウイには剣道が根付いている。これも先輩隊員が20年前に教え始め、歴代の隊員にサポートされながら続いてきた結果である。昨年はマラウイ剣道20周年を迎え、日本大使館の協力もあり大規模な剣道大会が開催された。

JICA ボランティアがマラウイに来てから40年が過ぎ、マラウイの JICA ボランティア総数は1500名を超えるという。物を大切に扱わないマラウイ人。物事を継続して行なうことが苦手なマラウイ人。多くの先輩隊員は私以上に色々と苦勞を重ねたことだと思う。私はこのような先輩たちが残した足跡に励まされ勇気付けられ、活動を行っている。自分はこのマラウイのために何を残しているのか、何が残せるのかまだわからない。しかし、残り5ヶ月の任期も自分らしく自分のできることをマラウイのためにしていきたいと思う。



寄付された器具と自分たちで作った器具を使って理科の授業を実施



マラウイ剣道20周年大会の選手集合写真

23-2 ガーナ共和国 青少年活動 奥村 麻衣さん

私は2011年9月末より、西アフリカにあるガーナ共和国に青年海外協力隊(平成23年度2次隊・青少年活動)の隊員として派遣されています。私の任地は、ガーナの首都アクラから約50kmのイースタン州にあるアクロボンという町です。アクロボンは山の上であり、一年を通してとても涼しい地域です。山の上にあるので景色がとてもよく、夜は星空がとても綺麗です。ただ水が水道管から出ない地域なので、私の家では庭にある大きなタンクに雨水を溜め、洗濯や水浴び、食器洗い、トイレの水に使用しています。毎日そのタンクからバケツに水を汲み、ガーナ人がやっているように、頭の上に乗せて自分の部屋まで運んでいます。

活動先はアクロボンにある盲学校で、視覚障害のある子どもたちにコンピューターと体育の授業を行なっています。ガーナには盲学校が2校あり、私の活動先である盲学校では幼稚園クラス、小学部、中学部、職業訓練クラス(音楽、クラフト、リハビリ)があります。職業訓練クラスでは、中途障害の方も入学してくるので、大人の方も多く、全校生徒は約400人位です。全寮制で、生徒は皆学校の敷地内にある寮で生活をしながら勉強をしています。

ガーナに来てあっという間に一年半が経ち、現在は小学部1,2,3年生の生徒にコンピューターの授業を、体育の授業は、最近産休から復帰した体育の先生と新しく赴任した体育の先生との3人体制で、幼稚園クラス、小学部、中学部、職業訓練のリハビリクラスの生徒を対象に、時には一緒に、授業が何クラスか被っている時には分担して、授業を行なっています。



生徒一人ひとりにコンピューターに
沢山触れてもらおうとしている

学校のパソコンには視覚障害者用のスピーチソフトウェアが入っており、その音声を頼りにパソコンを操作します。殆どの生徒がパソコンを使用するのが初めてだったので、まずはパソコンのパーツを触ってもらいながら形と名前、機能を一致してもらいました。それからパソコンの起動、終了の仕方、メニューの見方、プログラムの選択、キーボード配列、ワードの起動、タイピングの練習、文書の保存、音楽の再生の仕方、USBやCD/DVDの開き方等、視覚障害を持った生徒たちが興味を持ち、更にこの先視覚障害を持った生徒たちの助けになる内容を優先して教えるように努めています。クラス内には視覚障害だけでなく、軽度の身体障害、知的障害を持ち合わせた生徒もいるので、障害の程度や理解力に差があり、何度教えても習得しない生徒もいます。そしてきちんと動くコンピューターは10数台なのに対し、生徒の数は一クラス20~30人ととても多く、また子どもなのですぐコンピューターに夢中になって言う事を聞かなくなったり、お喋りを始めてしまったりする生徒もいるので、当初は一人では授業の進行が難しいなど感じる事が多々ありました。解決策としてクラスを半分に分け、同じ授業を生徒を変えて2回行うようにし、時にはガーナ人の先生、また弱視の生徒、理解の早い生徒に、他の生徒のフォローをしてもらい、授業の流れを崩さずに、なるべく全員の生徒に理解してもらえようとするように心がけています。



反対側で音を鳴らし(拍手、鈴など)

その音を頼りに片足走りしているところ

体育の授業では、ストレッチや筋トシ、体を使ったエクササイズ、色々なランニング(片足走り、後ろ向き走り、円になって走る等)、綱引き、音が鳴るボールを使用しているキャッチボール等、健常者が行うスポーツと同じ様なもの、日常生活で使われづらい体のパーツを使用したエクササイズ等を視覚障害を持った生徒も出来るように工夫して行うようにしています。「生徒たちの目が見えない」ので、ひとつのエクササイズをやってもらうのにも、言葉で(英語で)全員が理解するように指示を出さなければなりません。例えば、「こんな風にやるんだよ」ってやって見せることが一番簡単で分かりやすく、生徒の注意も引けると思いますが、盲学校の授業ではそれは使えません。コンピューターの授業同様、指示出しが分かりづらく、一人の生徒に時間をかけて「こうやるんだよ」と説明していると、他の生徒が集中力を欠いてしまいます。子どもたちが興味を持って授業に参加してくれるような内容を、分かりやすく、テンポ良く行わないといけません。昨年度は体育の先生が私一人で、苦勞・反省することが多かったのですが、今年度に入って体育の先生が3人となり、理解の遅い生徒、お喋りを始めてしまう生徒等のフォローを他の先生と行うようになって、スムーズに授業が進み、全員の生徒をフォロー出来るようになったので、残り半年もガーナ人の先生と協力しながら、授業を行っていきたいと思っています。

私の任期は後残り半年となりました。昨年の反省を活かしてよりよい授業を行うことは勿論のこと、視覚障害をもつ生徒との一番の伝達手段・言葉(英語力)の向上への努力、そして盲学校の生徒が楽しく学ぶことのできる環境を作れるように頑張りたいと思います。

23-1 ホンジュラス 小学校教諭 福田 南さん

中米ホンジュラスでの2年間

☆隊員活動に関すること(業務および日常生活全般)

私の任国は中米のホンジュラス。昨年の夏、サッカーで日本と対戦したので聞き覚えのある人も多いかなと思います。そして、私の任地は La Ceiba というカリブ海に面したホンジュラス第3の都市です。映画館もあるショッピングセンターもあります。そしておいしいお寿司が食べられる日本料理屋さんもあります。私が想像していた協力隊の生活とは全く異なった生活を送っています。この街で私は小学校の算数の先生として働いています。公立の学校なので学校に通ってくる子どもは貧しい子どもが多いです。破れた制服を着ていたり、穴があいた靴を履いていたり・・・でも、子どもたちの笑顔はキラキラと輝いています。そして、とっても素直です。私はこの2年間、子どもたちの笑顔に何度も救われました。

ホンジュラスの学校の朝はとても早いです。朝7時から授業が始まり9時まで2時間授業があります。そして9時から30分間はレクレオと呼ばれる休み時間があります。この休み時間に子どもたちは売店で菓子を買ったりジュースを買ったりしたり、サッカーをして遊んだりします。そして9時半から11時半まで授業です。ホンジュラスの公立小学校は2部制です。だから午前中に来る子どもたちは7時から11時半までです。時には電気がなく真っ暗な中、子どもたちは一生懸命勉強をしています。



☆任国に関すること（食べ物、習慣、旅など）

私の任地はカリブ海に面しているということもあって、カリブ海の島へのアクセスは抜群です！ホンジュラスには、4つの島がカリブ海にあります。どの島もとっても素敵な場所です。その中でも一番のお気に入りの島、Cayos Cochinos を紹介したいと思います。Cayos Cochinos は4つの島の中では最も小さい島です。だから、ガイドブックには掲載されていないことが多いです。この島までは、私の任地から車と船で1時間くらいで着きます。この島には、ガリフナ族というアフリカから連れてこられた人たちの子孫が生活しています。彼らの作る食事、彼らの文化、彼らの踊り etc そのすべてが魅力的です。

残念なことに私の任地は私が最後の隊員です。治安が悪いからです。毎日何人も人が殺されています。しかし、そんな中でも笑顔で暮らしている子どもたちがいます。早く治安が良くなり再び隊員が活動できる街になればいいなと思います。



23-3 チリ 村落開発普及員 吉田 美由紀

配属先：Libertador General O' Higgins, Provincia de Cachapoal, Codegua 市役所
地域コミュニティ開発部 DIDECO(Dirección de Desarrollo Comunitario)
PRODESAL(Programa de Desarrollo Local)地域開発プログラム

当方が活動するコデグア市は首都サンティアゴから約 80 キロほど南下したアンデス山脈にほど近い農村です。人口は 1 万 4 千人ほどで、住民の大半は農業に従事しています。貧困率は最貧困と貧困を合わせると半数にのぼります。首都からもほど近い距離にありながらも、季節労働者が大半で安定した収入がない現状で、将来に希望が持てない若者が多いという現実があります。

村落開発普及員として赴任して、1 年 4 カ月が過ぎようとしています。当方が席を置くのは市役所の地域開発コミュニティ部に所属する地域開発プログラム、PRODESAL と呼ばれている部署になります。このプログラムは、国と市とが共同で、地域の零細農家の技術、金銭的な援助を行うもので、同僚はそれぞれ果樹栽培、野菜栽培、養蜂、酪農、花卉栽培など専門性を持ったスペシャリストです。その各同僚がみているプログラムの利用者のなかで、商品を販売している農家を対象に、売上向上のためのアドバイスを行っています。

その一方で、市役所の地域コミュニティ開発部が中心となって行っている地域ブランド作りのプロジェクトに当初から関わり、今年中に何か形になるものを残したいと思っています。地域おこしの一環ではありますが、前述したような現状を踏まえ、少しでも地域住民が地元で誇りをもてるように、伝統を掘り起こしながら、新たなアイデンティティを醸成できるような、イメージアップにつなげることができればと期待しています。

チリ人は、一般的に外国人には親切です。見ず知らずの東洋人が突然訪ねてきても、嫌な顔をする事なく、対応してくれます。一説によると、チリは"地の果て"にあるので、外国人が来ること自体がめずらしく、わざわざ遠いところから来たことをねぎらう気持ちがあるからだと言います。これだけ文明が発達した今、以前のような長旅をする必要はなくなり、人の往来も増えたとはいえ、いまだにその気質は抜けていないようです。確かに、首都サンティアゴを歩いているだけでも、私のように目に見えて異質の外国人はあまりお目にかかりません。家族を第一に考えるなど、いわゆる"ラテン気質"は健在ですが、その一方で、同じラテンの中でも、国や地域で明確な違いがあります。チリはその中でも、まじめで仕事や約束事を守るほうだと個人的には感じています。シャイなところもあり、どこか日本人に通ずるものもあります。南北に長い地形と、東はアンデス山脈、西は太平洋に囲まれた地形からも、島国日本と相似する点があるように思います。



コデグアの酪農農家が夏季に放し飼いにしていた家畜（馬、牛）を囲いにいくロデオに同行した際の写真。雄大なアンデス山脈の中腹にある彼らの拠点が見える。

23-3 ソロモン諸島 環境教育 狐塚聡志さん

私が環境教育隊員として、ソロモン諸島の首都ホニアラ市で活動を開始してから、既に1年以上が経過した。ソロモン諸島は自然豊かな島国で美しい海に囲まれている。しかし、習慣化しているゴミのポイ捨てがそれを台無しにしていることも事実で、この国が抱える深刻な問題の一つである。

彼らにとって、かつてゴミは自然に還るものであった。しかし、周辺諸国がプラスチックなどを持ち込んだことでゴミは還るものではなく、ソロモン諸島の豊かな自然は奪われた。それがソロモン人の意見の大多数である。“自分自身のポイ捨て行為が自然を汚している”という自覚を持たない人々に対して、如何に環境教育を行うべきか。これこそが、私にとって最も重要な課題である。私の、課題解決のために特に意識していることは、“笑顔で楽しく、飽きない活動・様々な視点からのアプローチ”の2点である。ゴミという存在は誰もが距離を置きたいものであり、その取り組みに魅力を見出すために重要であると考えた。

私の取り組んでいる活動で、月一回の市内ごみ拾い運動は毎回約100名の参加者が活動用Tシャツを着用しながらゴミを拾うことで、環境美化と活動の宣伝の役割を担っている。

“遊びを通じた学び”にも力を入れており、教育機関では紙芝居やカルタを用いてわかり易い授業を心掛けている。また、リサイクル工作教室やネイチャーゲーム(自然を利用した遊びを通して、自然の大切さを学ぶ)といった活動も実施しており、多種多様な環境教育を目指して取り組んでいる。

さらに、複数の団体と交渉してゴミ問題に取り組む団体数を増加させることにも力を注いでいる。その一例として、サッカー協会を挙げたい。ソロモン諸島の人々はサッカーに対して熱狂的であり、彼らの存在は強い影響力を持つ。現在は、代表選手を用いたポスター作成に取り組んでおり、競技場内でのハーフタイム(試合の休憩時間)ゴミ拾い運動と試合前後での環境美化アナウンスに関しては、既に始動している。

ソロモン諸島のゴミ問題の現状を見る限り、短期間での解決は不可能に近い。「ゴミはゴミ箱に捨てること」「ポイ捨てをしてはいけない」という段階から徹底しなければならない事実が、それを物語っている。しかし、それでも将来的にゴミ問題に取り組む人々・団体が増加することは期待できる。

数十年後のソロモン諸島の姿が、私の活動に意味があったのか否かを教えてくれるに違いない。



Pikinini Cleanup Team(市内ゴミ拾い運動)



ネイチャーゲーム(写真の景色はどこ?)

4. お知らせ

協力隊ナビのご案内

当会では、JICA ボランティアを目指す方々の応募相談会を開催しております。青年海外協力隊員、シニア海外ボランティア、いずれの相談にも対応しておりますので、知人に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。また、応募相談に対応できるOB・OGで、協力いただける方はご連絡ください。

開催スケジュール : 毎月第4土曜日 14:00~16:00 (2013年12月のみ、第3土曜日となります。)
 場所 : 浦安市国際センター (JR新浦安駅徒歩1分)
 連絡先 : info@jocvchiba.net

- ※ 時間、場所は変更の可能性がありますので、詳細はホームページをご確認ください。
- ※ 予約不要です。

原稿募集

帰国隊員や各種関連機関に向け、年に1回、会報を発行し、活動計画及びその結果報告、様々なイベント等の情報を掲載しています。隊員からの寄稿文も随時掲載しておりますので、何か記事に載せたいものがありましたら、info@jocvchiba.net までご連絡下さい。

HPのご案内

青年海外協力隊 千葉 OB 会のホームページをインターネット上に掲載しています。活動報告・お知らせなど随時更新しておりますので、ぜひご確認ください。

青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ : <http://www.jocvchiba.net/>

年会費納入のお願い

年会費は「1,000 円」。毎年、会費納入者の少ないのが悩みです。当会は千葉県在住在勤の帰国隊員で構成される任意団体です。会の運営の生命線は「会費」です。会費を納入しているから会員、納入して否から会員ではないと区別はしていません。いろいろなご都合で会合やイベントに参加できなくても、会費を納入していただければ立派に会員としての勤めを果たすことになります。規約に「会費については、主として連絡通信費に使用されるものである。」となっています。総会の案内や会報の発送などに会費は使われますが、事業を実施するにも資金は絶対に必要です。現在は JOCA に通信費の支援をいただいておりますが、当会の適正な運営のために会費は絶対必要不可欠です。協力隊に参加した時のことを思い出してください。「自分がやらなきゃ、誰かやる。」くらいの気概を持って参加したはず。当会は土日ボランティアの OB 会活動で、できる人がやればいいのですが、それでも一人でも多くの会員のご協力は必須です。「私がします、と言う奉仕の心」は昔の参禅訓練でのこと。「口は出さないけど、金は出す。」是非ともお願いします。OB 会を助けるとして会費の納入にご協力ください。1,000 円でも結構ですが、それ以上であればもっと嬉しいことです。

尚、今回は「ゆうちょ銀行」の振込用紙を同封しましたが、もう一つ振込口座がありますので、ご都合の良い方で会費の納入をお願いします。

銀行名 : 三菱東京 UFJ 銀行 船橋駅前支店
 □座番号 : (普) 4769024
 □座名義人 : 青年海外協力隊千葉OB会

5. 編集後記

2011 年以来、2 年ぶりの会報の発行となります。編集者が不慣れで、読みにくい部分もあったかも知れませんが、2 年ぶりの会報はいかがだったでしょうか？ 今後は年に二度のペースで発行することを計画しておりますので、会報に関するご意見・寄稿などありましたら、是非ご連絡ください。

私は昨年からは OB 会活動に顔を出させてもらっていますが、浜田会長をはじめとする以前からの OB 会メンバーの皆様のご尽力のおかげで、活動のしやすい環境が徐々に整えられてきていると感じます。新しい企画なども次々と発案されており、楽しく活動させていただいています。仕事などで忙しい方が多いと思いますが、余暇の気分転換に OB 会活動に参加されてはいかがでしょうか？

編集担当 15-1 マーシャル諸島 理数科教師 鳥飼 恵美子